

ISO39001(道路交通安全マネジメントシステム)の普及促進について

世界の交通事故による死亡者は、毎年130万人以上、負傷者は5千万人以上と推定されている。この交通事故を巡る状況として、先進国では、依然として交通事故が多く発生しており、更なる交通事故削減が課題となっている。また、世界の登録車両の半数を占めている開発途上国や新興国は、更に深刻な状況となっており、交通事故死亡者数もそれらの国々が大半を占めている状況である。今後、経済発展に伴いこれらの国々（地域）ではモータリゼーション（車社会化）が急激に拡大することが見込まれており、交通事故死亡者数の増加が危惧される。

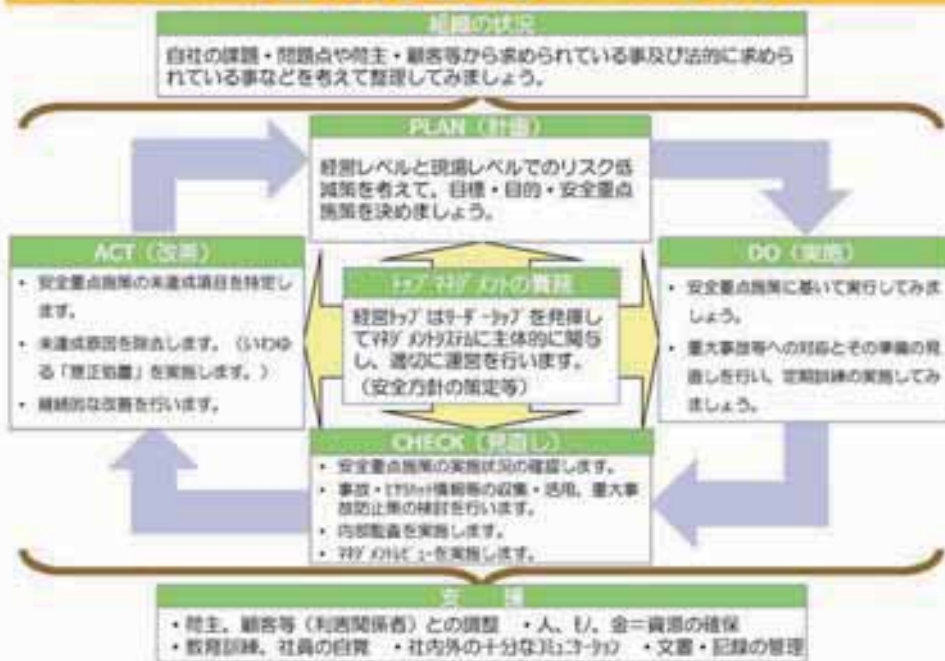
そのような状況下で、先進国が今まで培ってきた道路交通安全への取組（ノウハウ）を世界中が共有し、道路交通安全に向けた活動を共に行うことが求められていることからISO（国際標準化機構）では、平成19年にスウェーデンが交通事故による死亡者・重傷者の撲滅を最終目的とした、「道路交通安全の分野に標準化された道路交通安全マネジメントシステムを導入する必要性」を提唱し、道路交通安全マネジメントシステムの国際規格の新規提案が行われた。これを受け、規格開発を行うための委員会が発足し、7回の国際会議を経て、平成24年10月1日にISO39001が発行された。

日本では、独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が、ISO39001の規格開発に関する国内の意見集約を担う国内審議委員会事務局となり、国際会議に出席し、平成18年の運輸の安全性の向上のための鉄道事業法等の一部を改正する法律（平18法19）により、国内の陸・海・空の運輸事業者向けに導入されたISO39001と親和性の高い制度である「運輸安全マネジメント制度」との整合性確保を中心に意見の提案を行った。

規格発行後は、本規格の普及・浸透を図るため、道路運送事業者等を対象にNASVAによる説明会の開催や研修会への講師派遣等を行っている。

今後、本規格の最終目的である「道路交通事故による死亡者・重傷者の撲滅」を目指すため、本規格の認定・認証制度の信頼性確保等によるISO39001の普及・促進等、「官」と「民」が一体となった道路交通安全に関する各種対策を交通事故防止に繋げていくことが重要である。

■ISO39001の基本的な考え方ーPDCAサイクル



■ISO39001の適用範囲

『道路交通システム（人・道・車・救急医療システム）』に関わる幅広い(公・私問わず)組織(企業・団体)で採用することが可能

